

はばたき

男と女がともに歩む情報紙 第46号

平成25年12月発行

企画・発行/海老名市市民活動推進課

人権男女共同参画係

TEL: 046-235-4568【直通】

第2回男女共同参画講演会

男女共学で地域力をつくる!

を開催しました。

10月5日(土)えびな市民活動センター交流館にて男女共同参画講演会を開催し、雨天にも関わらず438名もの多くの方にご参加いただきました。講師は、ベストセラー「おひとりさまの老後」の著者であり、著名な社会学者である上野千鶴子氏。男女共に自立して充実した人生を送るために、新たな人間関係づくり・地域づくりの秘訣を、ユーモアを交えながらご講演いただきました。講演のあとには質疑応答やサイン会も交えた有意義なひとときとなりました。



女性学・センターのバイオフィリアである上野千鶴子氏

族化・少子化等により家族の形も変化しており、家族頼みしたくてもできない人が年々増えています。家族に変わる地域コミュニティ作りのニーズが高まってきました。

【必要なのは地縁よりも「選択縁」】

地縁・血縁・社縁等、以前から地域コミュニティはありました。しかし、これらはしがらみやつながりが強く、プライバシーの確保が難しいこと、また自分でコミュニティを選択することもできなければ、抜けることもできないといった欠点がありました。

私は、これに代わり「選択縁」を推奨します。「選択縁」とは、脱血縁・脱地縁・脱社縁の新しい人間のつながりで、加入・脱退が自由で強制力がない、まるごとの関わり合いを求めない、自分の意思や志、フィーリングで選んだ「縁(えにし)」のことをいいます。米びつの中身までみんな分かっている抜け出せないようなプライバシーのない関係ではなく、肩ひじ張らない付き合いの中で自分の居場所、仲間を持つことができれば「おひとりさま」でも心強いはずですよ。

【「おひとりさま」の時代がやってきた】

長生きすれば人はいずれ「おひとりさま」になります。現在、高齢者世帯の5人に1人は単身世帯です。また、夫婦どちらかが先立つと「おひとりさま」となってしまう世帯(おひとりさま予備軍)が3割を超え、トータルすると今後少なくとも5割の世帯が「おひとりさま」状態に直面していきます。「最期は家族に看取られて…」と家族に頼る図式が日本のスタンダードでしたが、核家



男女共学で地域力をつくる

～上野千鶴子 講演録～

【仲間作りが得意なのは女性！？】

「選択縁」の社会は、男性よりも女性が先行しているといえます。例えば、転勤族の妻たちは、知り合いがいない、頼る人がいない中でゼロからつながりを作ります。女性は必要に迫られることにより、ネットワークを培う術を身に付けてきました。（これを「女縁」と呼びます。）。「女縁」内のコミュニケーションは細やかで親族ネットワークに変わる互助機能を持っています。

一方、男性はどうしてもタテ社会や利害関係の強い会社の縁が優先されてしまい「選択縁」を作ることに関しては、後回しになってしまうことが多いようです。

女縁がうまくいくコツ「女縁の七戒」

- ①夫の職業は言わない
- ②子どものことは言わない
- ③学歴を言わない
- ④お互いに「奥さん」と言わない
- ⑤お金の貸し借りはしない
- ⑥女縁をお金儲けの場にしない
- ⑦相手の内情に深入りしない

【これからは男女共学縁を！】

いつの間にか男女別々に社会が分けられてしまいましたが、超高齢社会を迎えた現代においては、社縁頼みだった男性も、定年後のセカンドライフについて、しっかりと考えていく必要があります。男性が人生の下り坂をひとりで生きていくことは大変です。「ピン・ピン・コロリ」と簡単にはいかないのです。「おひとりさま」の時代は、男性にとっても新たなコミュニ

ティの場作りが必要になっており、これからは男性、女性にかかわらず、男女共学の場作りを進めていくべきです。

このためには、先行している「女縁」に男性も参入していくことがもっとも現実的かと思えます。もちろん、あとから参入していくにはそれなりにルールが必要です。

男性の参入七戒

- ①自分と相手の前歴は言わない、聞かない
- ②家族のことは言わない、聞かない
- ③自分と相手の学歴を言わない、聞かない
- ④お金の貸し借りはしない
- ⑤お互いに「先生」や「役職名」で呼び合わない
- ⑥上から目線でものを言わない、その場を仕切ろうとしない
- ⑦特技やノウハウは相手から要求があったときにだけ発揮する

【誰もが安心して弱者になれる社会へ】

超高齢社会を誰もがいつかは弱者になる社会だと考えれば、私たちは自分が衰え弱者になっていくことを前提に人とのつながりを作っていくことが必要です。誰もが安心して社会的弱者になれる社会、困ったときに『助けて』といえる社会を目指していくべきです。

こうしたときに、特に男性の中には自分の弱さをさらけ出すことに躊躇する方も少なくありません。必要なときに「助けて」と言えるような「弱さの情報公開」のスキルも必要不可欠です。

「助けて」というための作法

- ①自分の弱さを認める
- ②何に困っているか（ニーズ）を言語化する
- ③安心して話せる相手を見つける
- ④泣いたり、怒鳴ったり、キレたりしない、自己主張の訓練をする
- ⑤卑屈にならずに相手に要求する
- ⑥感謝とユーモアを忘れない



上野先生ありがとうございました

男女共同参画推進員の声

上野千鶴子講演会を聴いて

推進員：滝口澄子



必ずやってくる超高齢社会。誰もが安心して高齢者(社会的弱者)になれる社会であってほしいところですが、そのための私たちの心構えも必須なようです。男性によくみられるとのことですが、自分の衰えを考えたくないと意地をはったり、現役のときの肩書にしがみついたり縦社会をひきずっていたり、それでは素直に「困った、助けて」と言える人間関係(縁)を作りにくいとお野さん。

現代では家族や職場などのあり方が変わってきていて、昭和の時代のような血縁、地縁、社縁を頼る考えも変わらなければというのです。そのためには、学歴、前歴、資格などを聞かない、上から視線をしない、お金の貸し借りをしない、要求されたときだけノウハウを提供する、といったルールをふまえての楽しい仲間の輪を元気なうちに作っておくことがとても大切と話されました。世のため、人のため、でもそれは「自分のため」なのだ。「情けはひとのためならず」という言葉を思い出しました。

子育てをとおして情報交換して助け合うことに慣れている女性たちにくらべ、競い合うことが多い男性たちはなかなか助けを求めにくいようですね。どうせなら、肩ひじ張らずに楽しく、そして何かのときには助けたり、助けられたり、素直に素の自分をだすことは、簡単そうで、難しいかもしれませんが、やってみる価値は大ですね。男性、女性にこだわらず、安心な老いを!上野さんからの力強いエールを受け取った講演会でした。

男性にとっての男女共同参画とは？

～男性にとっても暮らしやすい社会をめざして～

男女共同参画というと「それは女性のためのもの」と感じる男性は多いと思います。しかし、このことは男性にとっても重要なテーマです。



例えば、こんな経験はないでしょうか。

- 育児休職を取りたくても「奥さんがいるのに何で君が？」と取れなかった…
- 「男は弱音を吐くべきでない」との思いから、悩み事を相談できずにいた…

「男性だから」という意識が、あなた個人にとっても、社会全体にとっても重荷になっていることがあるのではないのでしょうか。

固定的性別役割分担意識

「男は仕事・女は家庭」等のように性別を理由として役割を固定的に分ける考え方のことを「固定的性別役割分担意識」と呼んでいます。女性が「固定的性別役割分担意識」によって社会進出を阻まれてきた、ということはよく言われていますが、男性も、「男は仕事」、「男は強くなければならない」など、性別による役割の固定化を受けてきたと言えます。

「男女共同参画社会」をめざすもの ～男性にとっても暮らしやすい社会を～

私たちのめざす男女共同参画社会とは、男性だから、女性だから、ということではなく、ともにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、個性と能力を発揮することができる社会です。

男性自身の、男性に関する「固定的性別役割分担意識」を解消できれば、男性がより暮らしやすくなる社会を築いていけるのではないのでしょうか。

相談室から



女性に対する暴力根絶のためのシンボルマーク

海老名市では、「女性相談員による女性のための相談」を実施しています。

自身の生き方、夫婦・家族のこと、夫・恋人からの暴力などについて一緒に考えます。

☎女性相談ダイヤル 231-2224 月～金（祝日を除く） 8:30～17:15

※その他、海老名女性支援電話「そよ風」という非営利のボランティア組織による相談もあります。

☎235-7353 火曜：10:00～13:00／土曜：13:00～16:00（無料）